

NPO 法人言語発達障害研究会 第 93 回定例会報告

日時： 2025 年 2 月 1 日（土）14:00—16:30
場所： オンライン
題名： 外国につながる子どもの発達障がいと支援について
講師： 高橋 脩 先生
豊田市福祉事業団理事長

第 93 回定例会は、豊田市福祉事業団理事長で児童精神科医師の高橋 脩先生にご講演いただきました。ライブ配信およびアーカイブ視聴を含め、言語聴覚士、教員、保育士など 98 名の方々にご参加いただきました。高橋先生には、事前に募った参加者からの質問に沿ってお話いただき、当日の質問にも丁寧にご回答いただきました。その結果、アンケートではこれまで以上に好評な反響をいただきました。

高橋先生のご講演に先立ち、国立障害者リハビリテーションセンター発達障害情報・支援センターの与那城 郁子先生より、センターのウェブサイトや情報発信「発達障害ナビポータル」、外国人保護者向けパンフレットなどの活動内容の紹介がありました。23 言語にわたる福祉・教育情報についてのパンフレットや外国語対応可能な医療機関のリストなど、実用的なツールが多く共有されました。

「外国につながる子どもの発達障がいと支援について」高橋 脩 先生

日本における在留外国人の割合は年々増加しており、2024 年 1 月時点では、全国で 37 人に 1 人、年少人口では 53 人に 1 人に達しています。豊田市では、在留外国人は 20 人に 1 人、年少人口は 21 人に 1 人という状況です。こうした多国籍化、定住化、散在化が進んでいることにより、日本は本格的な移民政策が必要な段階に入っており、これに伴い、外国につながる発達障がい児への支援のニーズも高まっていることが解説されました。



外国にルーツを持つ子どもの言語獲得については、バイリンガルであることは、言語・コミュニケーション・知能の発達に悪影響を及ぼすことはなく、むしろ自己統制や役割取得などの実行機能の発達を促進する可能性があることが説明されました。さらに、それは定型発達児に限らず、自閉スペクトラム症やダウン症などの発達障がい児にも当てはまるという研究結果が紹介され、実際に高橋先生が経験された症例の紹介がありました。

また、障がいの発見についても、自閉スペクトラム症や注意欠如・多動症（ADHD）など、障がいごとに留意点やポイントが示されました。支援における保護者とのコミュニケーションでは、明確で分かりやすい日本語表現や母語でのサポートの重要性が強調され、さらに、支援者が保護者に提供すべき情報や社会的な支援体制などについても詳しく学ぶことができました。

特に印象的だったのは、「保護者が一番心をこめて話せる言語が安定的な親子関係を作る」というお話でした。また、バイリンガルが子どもの発達を阻害するものではないという事実は、言語にかかわる支援者にとって、明確な支援の方向性を示すものであると感じました。

高橋先生が一貫して述べられていたのは、障がいと異文化という2つの支援ニーズに対し、支援をする側が支援を行う前に、子どもや家族について十分に理解し、その上で相手の文化的背景を尊重することの重要性でした。目指すのは、日本人のようになってもらうこと（「同化」）ではなく、多様な文化・民族・発達特性をもった人々が相互に多様な存在を認め合い、地域社会で共に暮らす真の「共生社会」を一緒に作っていくことです。私たち支援者はその担い手の一人であることをあらためて実感しました。

外国につながる子どもたちの臨床では、日々悩みが生じます。しかし、高橋先生がご講演の中で述べられたように、「多様性を認める共生社会、迷ったときにはここにたちかえる」ことが、支援に迷ったときの方向性となるのではないかと思います。

<参加者の声>

- 外国にルーツを持つお子さんと関わることに苦手意識がありましたが、高橋先生の「外国にルーツを持つお子さんと関わると自分の視野が広がる」という言葉を聞いて、前向きに取り組んでいきたいという気持ちになりました。
- 保護者との関わりは、言葉の壁と文化の違いに苦慮していますが、まずは相手を知り、第一言語と文化を大事にすること、同化ではなく、共生社会を目指すという基本的な考え方を改めて確認することができました。
- とても分かりやすく温かい内容のご講演でした。これまで外国にルーツを持つお子さんについて、定型発達児では書籍などで学ぶことができましたが、障がい児については情報の得にくさがありました。今回、障がいの有無に関わらず言語発達は同じである、ダブルマイノリティによる困難さは合理的配慮により解消する、と明確な指針をいただきました。
- 与那城先生の情報提供で、ウェブサイトやパンフレットについて知ることができ良かったです。高橋先生のご講義は、バイリンガルの言語発達や診断の道筋、支援へのつなぎ方など大変わかりやすく、これまでよりは自信をもって対応できそうに思います。
- バイリンガル環境による言語習得の遅れなのか、それとも発達の遅れなのかの鑑別をする際の目安をわかりやすく教えていただけて、今後の臨床においてたいへん有用なご講義でした。多くの外国にルーツを持つ定型発達のお子さんが、発達の遅れと誤解されて支援級に在籍している事実を知ったことは衝撃的でした。
- 現在、海外に住んでいるため多言語に触れる機会が多いです。本帰国後は外国にルーツをもつ子供達の支援を積極的に行なっていけるといいなと考えていたのでこの講演を聞くことができて良かったです。